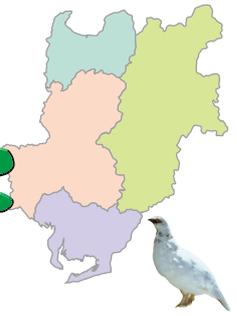




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/



国際森林年のロゴマークについて説明する城土局長



2011・国際森林年

森林・林業への関心をもち 県との連携により国際森林年をPR

(P2~4に関連記事)

主 な 項 目	○ 国際森林年記念講演会開催	P2
	○ 養成研修「森林官養成科」の実施	P4
	○ 宮城からのたより	P4~6
	○ 風景紀行	P7

森林鳥獣や病害虫による 森林被害対策について 考える講演会を開催

「企画調整室」十一月二十二日、国際森林年を記念して、局大會議室において「森林鳥獣や病害虫の生態、被害状況等への理解を深める」をテーマに講演会を行いました。

深刻な森林鳥獣や病害虫による森林被害の対策を考える講演会として三名の専門家を招き市民や林業関係者等約百二十名の聴講者がありました。

演題及び講師は、(独) 森林総合研究所野生動物研究領域長の小泉透氏から



講演会の様子

「ニホンジカ・クマの生態について」、信州大学農学部准教授の竹田謙一氏から「長野県内のニホンジカの被害状況やその対策と課題」、(独) 森林総合研究所研究コーディネータの牧野俊一氏から「カシノナガキクイムシの生態や被害対策について」を講演いただきました。

先ず小泉氏からは、ニホンジカの生態として食物メニューが千種類を超えることや、高い妊娠率などから千頭のシカが十五年後には一万頭を超えるとの指摘や、クマは餌の豊凶によって繁殖率が大きく変化するなどの発表がありました。

続いて、竹田氏からは長野県は他県に類を見ない野生鳥獣による農作物被害の発生が多いこと、ニホンジカの広域捕獲の一例として捕獲専門のプロ集団を目指す上伊那捕獲隊の紹介や国有林での新たな展開の期待として、データに基づいたモニタリングや情報の共有、森林施業管理と野生鳥獣管理はセットで考えるべきなどといった提言がありました。

牧野氏からはナラ枯れは八十年代以降に激増し、繁殖に好適な太い木ほど枯れやすいこと、ナラ枯れの発生を予測する研究の現状、防除方法として集合フェロモンを利用したおとり木トラップ法などの紹介がありました。

中部森林管理局のニホンジカ被害対策の事例発表ではGPS発信機使用のシカの行動調査や高山生態系への影響、シカ対策被害について紹介した南アルプス食



意見交換会に臨む講師と宿利計画部長、飯干森林整備部長

害対策協議会作成パンフレットの紹介や笠松式くくりワナの設置実演などが行われました。

講演終了後の意見交換の場では、シカの夜間捕獲の有効性、シカを駆除した際の処理方法の現状と改善すべき点、カシノナガキクイムシ防除のための樹幹注入用殺菌剤の単価や薬剤の持続期間など多くの意見質問が出されました。

今回の講演会を通じ、ニホンジカの被害対策や、カシノナガキクイムシ被害対策への関心が高いことを感じ、中部森林管理局としても今後とも森林鳥獣、病害虫対策について国民と双方向で情報交換を行いつつ取組を進めていきたいと考えています。

みんなが支える 森林づくり感謝デー 二〇一一年

「企画調整室・指導普及課・販売課」

十一月二十三日、長野県上田市において森林や木材利用への関心を高めることを目的に「みんなが支える森林づくり感謝デー二〇一一年」(主催：長野県、共催：中部森林管理局)が行われました。

当日は三部構成で行われたイベントの第一として「長野県児童・生徒木工工作コンクール」(主催：長野県木材青年団体連合会)が行われ、中部森林管理局長賞を受賞した小学一年生の金井快翔(かないかいと)さん(作品名「もりハウス」)に局長から賞状の授与が行われました。



中部森林管理局長賞の受賞作品の前で
(受賞者と城土局長)

続いて行われた「長野県森林大使任命式」では阿部守一長野県知事より英国出身で信濃町在住の作家CWニコル氏に長野県初の森林大使の任命が行われました。



長野県森林大使に任命されたCWニコルさんと阿部知事

イベントの最後には「信州の森林づくり応援トークショー」が行われ、パネラーの長野県知事からは「長野県は森林県であるのと同時に観光県である。それは自然の美しさがあってこそで林業は暮らしに密接に関わっている。」ことや、CWニコル氏からは「日本の森林は木の種類も多く、癒される。新しい学校や家を建てるときは日本の材木で作ってください。」など、山仕事創造者代表理事の香山由人氏からは「間伐

の必要性と森を手入れることで結果人が森の中に入りやすくなっていく。」、城土局長からも「国有林には皆さんの身近に自然休養林があります。国際森林年は残りあと一ヶ月ですが、森を歩くというテーマの精神は来年以降も変わらないので、森を歩く実践をお願いします。」などの話がありました。

「木づかい推進月間」の取組

【販売課】毎年十月は「木づかい推進月間」として木材利用の意義を広め、利用の拡大につなげるための集中活動が展開されました。

十月四日には岐阜県木材利用推進協議会（後藤直剛会長）と名古屋事務所が連携し、木材利用の推進に関する要望活動を行い、岐阜県古田知事をはじめ、県議会議員、林政部、教育委員会に対して、「木材の利用推進に関する要望書」を手渡し、公共建築物の木造化、公共工事における木材利用促進、県産材を使用した木造住宅の建設促進等について要望し、理解と支援をお願いし、翌日の五日には、愛知県木材利用推進協議会に同行して、愛知県知事、県議会議員、中部地

方整備局、東海農政局に木材利用推進に関する要望活動を行いました。



岐阜県知事への要望活動（名古屋事務所）

また、長野県が定める「ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間」と合わせ、民国連携による森林づくりへの参加や木材利用への理解を深めていただくことなどを目的に、長野林政協議会活動の一環として、十月二十八日から十一月六日までの間、ステーションビルMIDORI長野店並びに松本店において、森林の働きや役割、地域材利用や国有林の取組についてパンフレットやパネル、木工品などを展示しPRしました。三十日には、木のおもちゃ（ひのき湯玉プール・ブロックなど）・ウッドイブ笑いや木材

反発力実験などを通じて木に直接触れて、木の香やぬくもりなどを体感してもらい、森林の大切さ・地域材の利用などについて普及啓発活動を行いました。今後においても、木づかい推進月間などについては、民国連携によるより効果的な活動の推進を引き続き実施していくこととしております。



木のおもちゃで木のぬくもりを体感

「列状間伐の考え方と実践」についての講演会

【販売課】十一月二十九日、松本市あがたの森文化会館において、職員並びに県職員・林業事業者等の関係者を対象に、「列状間伐の考え方と実践」と題して、同名で著書を出版している信州大学農学部森林科学科の植木達人教授を招いて講演会を開催しました。



講演する植木教授

当日は、総勢百三十二名の参加のもと、高い知見を有する植木教授から、実践事例を分析したデータ等から、そのメリット・デメリットについての話をいただきました。

今後も、当局が積極的に取り組んでいる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率作業システムの普及・推進をする上で、安全面も含め有効な施策として、民国連携して、初回間伐、場合によっては二回目の間伐林分をも対象に取り組んで行くことを改めて認識する機会となりました。

国有林の顔として活躍を

～養成研修「森林官養成科」の実施～

〔総務課〕平成二十三年十一月八日から十一月十七日までの十日間において、次年度より森林官へ任用予定である採用四年目のⅡ種採用職員四名、採用九年目のⅢ種採用職員三名合計七名に対する森林官養成研修が実施されました。

本研修は現場第一線での森林官業務の特徴に即したカリキュラムにより、森林管理、事業の実行、第三者対応等の適切な状況判断及び司法警察員としての資質の確保を習得させるものであります。

カリキュラムでは、局関係各課からの現場業務と実態に即した講義は基より、先輩森林官からは、具体的な業務の説明と地域との交流、署の窓口としての重要性等について、外部講師として国有林アドバイザーからは、植物観察等を通じて、山の仕事を行うには森林に興味を持ち森林が好きになる者でなければならぬといった心構えを始めとした講義を受け、研修生は森林官業務の重要性を新たにいたしました。

最終日の修了式には、局幹部出席のもと、局長から一人一人に修了証書が授与されるとともに、森林林業再生プランを始めとした森林林業を取り巻く情勢の変化と国有林が重要な時期にあることの認識、今まで培った森林・林業の専門的な知識や技術に自信と誇りを持ち、更なる



国有林の顔として活躍が期待される研修生（後列）

自己研鑽に努め、国有林の顔として関係市町村や地域住民と連携しつつ大きく飛躍してほしいとの訓示があり十日間の研修を終了いたしました。

宮城からのたより

～海岸林復旧対策事務所より～

東日本大震災の復旧対策に当たり、宮城北部森林管理署海岸防災林復旧対策事務所へ応援派遣されている宮下崇さんから、現地での活動の様子や近況を伝える便りが数回届きました。そのうち、十一月三十日に届いたものを掲載します。



応急対策を行う前の様子

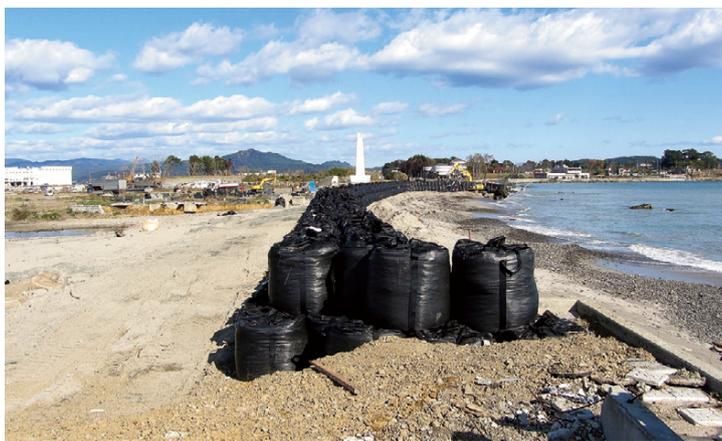
〔宮下崇〕お疲れさまです。十一月も末になり、こちらでも初雪が降りました。私が主に担当する気仙沼市は岩手県境の一番北側に位置しており、湾が深く海岸はリアス式海岸地形となっており、津波の高さが10メートルを超え多大な被害が出ました。

今回は陸中海岸国立公園内、「潮吹き岩」で有名な観光スポットの南側に位置する岩井崎地区です。ちなみに周囲の被害は甚大ですがここは今でも潮吹きが見えるそうです。（私は見る事ができませんでした。）

以前は海沿いに墓地があり背後に水産工場、高校などがある活気のある地区

(5) 平成 23 年 12 月

★先日隣の三陸中部署管内の陸前高田市に行く機会がありました。
 気仙沼市では土台は残っていますが、ここでは土台すら流され、市内の至る所で湛水しており宮城県との温度差を感じました。
 以前はというと海岸沿いに「高田松原」とよばれる白砂青松の景色が広がっておりましたが現在はテレビでも放送された「奇跡の一本松」だけを残すのみという状況です。

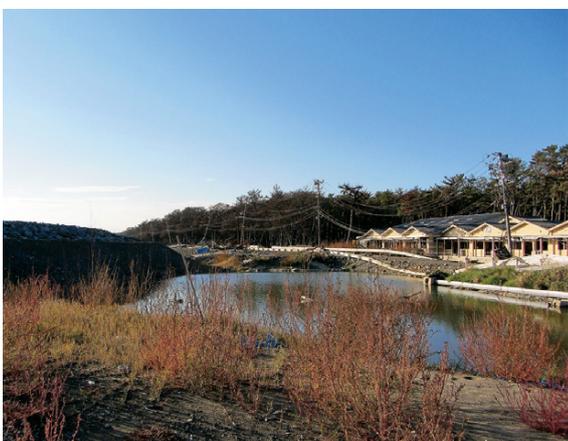


応急対策実施後の様子（現在）

★海岸防災林は、潮害・飛砂・風害防備等の機能を有する保安林ですが、今回の津波に対する効果としては津波の減衰、到達時間の遅延、漂流物の捕捉等の効果があげられます。（林野庁HP）とはいえ陸前高田市のように大規模な津波には限界があるようです。
 今回津波の威力を減衰させ、漂流物の捕捉をしたとされる石巻市にある防災林の状況です。
 林内では壊れた防潮堤を捕捉している状況を見ることができですが、背後の建物には被害がなかった訳ではなく、やはり壊滅的な被害が発生しています。



高田「奇跡の一本松」



右に見える建物は幼稚園（石巻市）



海岸林背後の状況

★防災林のない箇所はこのような状態になっていますがこの地区は形が残っている家が多いように感じます。
 海岸林背後もこのような状況です。
 陸前高田市の一本松はあれだけの津波の中を様々な要因が重なり生き残り残りました。



漂流物を捕捉（防災林）

しかし前項の写真のように直前に海岸防災林がなく、海に面した住宅が住めない状態ですが家の形が残り、その後ろでは店舗が営業しているという現実もあり、またその隣に広がる海岸防災林はほとんど被害が出ていないにも関わらず、背後の住宅、店舗は壊滅的な被害を受けたりと、数分の間でこれだけの生活の違いを感じました。

確かに防災林の津波に対する効果だけをとれば漂流物等の捕捉はありますが、全体を見るとこうした状況です。何の要因で残ったのかは、いまだによく分かりません。

今回の津波と被害の大きさを痛感しつつ、現地ではあちこちでこうした状況を見て取れ、「奇跡の一本松」が希望や勇気象徴であるのかがこうした状況からわかるかと思えます。

(残念ながら、十二月に入り「奇跡の一本松」は回復困難との報道がありました。)



人のうごき

中部森林管理局人

十二月一日付

▽計画部国有林野管理課鑑定官(飛騨署 神岡森林事務所首席森林官)

辻ノ内良明

▽飛騨森林管理署神岡森林事務所首席森林官(岐阜署総務課長)

土田愉貴宏

▽岐阜森林管理署総務課長(総務部総務課人事係長)

都竹 昌和

▽総務部総務課人事係長(飛騨署業務第二課長)

屋敷 昌司

▽南信森林管理署業務第一課付(南信署 豊丘森林事務所首席森林官)

飯島 隆男

▽南信森林管理署豊丘森林事務所首席森林官(南信署和田森林事務所森林官)

白子 和広

▽飛騨森林管理署業務第二課長業務第二課併任解除(飛騨署業務第一課技術専門官業務第二課併任)

四ツ嶽 誠

▽飛騨森林管理署業務第一課付(岐阜署 総務課付)

所附 泰幸

▽南信森林管理署和田森林事務所森林官併任(南信署上村森林事務所森林官)

大前 辰男

▽飛騨森林管理署業務第一課付(飛騨署 業務第一課森林ふれあい係長)

大西 沙織

▽復帰 岐阜森林管理署業務第二課付 企

画調整室(名古屋事務所) 併任解除
(計画部指導普及課(名古屋事務所) 企画調整室(名古屋事務所) 併任)

加藤 里実

シリーズ 現場最前線

熟練の技で効率的な作業を展開

「東信森林管理署 真田班」真田班は、長野県上田市、青木村を管轄する真田・青木の二森林事務所を受け持ち、現在、基幹作業職員二名で作業にあたっています。

作業は除伐等の保育作業、境界巡検、林道維持、保全管理業務等多岐にわたっています。

各作業にあたっては、二人とも熟練な技を十分発揮して、効率的でアイデアに富んだ作業を展開しています。また、森林事務所が地域に貢献できるように常に意識して業務にあたっています。

中でも境界関係では官民界が錯綜しており、かつ国有林内に大小六十ほどの民有地が介在しているので、境界巡検には苦労していますが、標示にあたって、大型の見出杭を設置するなど工夫して境界の保全に努めています。

安全活動では毎朝、森林事務所において森林官と天候や作業に応じたミーティングを行い、少人数班であることから緊



真田森林事務所の前で

急時の連絡体制について必ず確認してから作業地に向かっています。

いずれの作業地も急峻で岩石地が多く、足場が悪いため、当班では通年の安全目標として「足場の確認・確保をしっかり行う」を掲げ、転倒・滑落等による災害の未然防止を図っています。

これから冬山作業を迎え、凍結・降雪・寒風と作業環境が一層厳しくなることから、各々が安全意識を高め、無災害を継続し、健康で明るい職場づくりに取り組んでいきたいと考えています。

行事・会議等の予定

◎「安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森」協定調印式

1月17日

長野市

◎中部森林技術交流発表会

1月31日～2月1日

長野市

ふう けい き こう
風景紀行
 飛驒の匠
 伝説の里～天生
 80
 飛驒森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

**岐阜の宝もの
 天生県立自然公園**

岐阜県の北部、大野郡白川村と飛驒市河合村にまたがる天生(あもう)峠。一年の半分近くを雪に閉ざされるこの峠は泉鏡花の小説「高野聖」にもその名が登場します。



ミズバシヨウ

天生県立自然公園には、高山植物が咲き乱れる標高一、四〇〇以上の高層湿原や広大なブナの原生林、神秘的なカツラの巨木などがあり、雄大で深淵(しんえん)

んな自然を体感することができます。

雪解けの六月初旬から初秋まで花が絶えることがないのが天生の大きな魅力です。なかでも天生高層湿原や深畔林では、春から初秋にかけて一面お花畑となります。春にはミズバシヨウ、ザゼンソウのほか、サンカヨウ、キヌガサソウ、タテヤマリンドウ、ツバメオモト、ムラサキヤシオツツジなどが、夏は、ニッコウキスゲやワタスゲ、ワレモコウなどが可憐な花を咲かせます。



キヌガサソウ



タテヤマリンドウ

また、秋にはブナやカツラ、ナナカマドの見事な紅葉が訪れる人を魅了します。各探勝路を抜け、初糠(もみぬか)分岐を抜けると標高一、七四四以上の、その名のとおり初糠が積もったような初糠山があります。



ブナ林



匠祭り

◆飛驒の匠のおこり〜匠神社
 約千四百年前の飛鳥時代に活躍した「止利仏師(とりぶつし)」が、幼少期に過ごした屋敷が、匠神社のある地と伝えられています。止利仏師は名工として知られ、法隆寺の釈迦三尊像にも名前が刻まれているほどであります。毎年十月になると止利仏師を偲んで、匠祭りが行われます。

◆森林環境協力金について

天生県立自然公園内では貴重な自然環境を保護保全していくため、入山者のご理解の下、協力金(五百円)を頂き、自然公園内の環境保全対策や森林監視パトロール等の普及啓蒙活動に役立てていただきます。



カツラ門

◆アクセス

(所在地) 岐阜県飛驒市・白川村
 ○車をご利用の場合

JR高山本線の飛驒古川駅から車で約五十分。河合町小無雁地区の河合橋を渡り、国道360号を道なり、白川郷方面へ。河合橋から車で約三十分です。

夏と秋の登山シーズンには地元バス会社によるシャトルバスが運行されています。

○その他

国道360号線冬期通行止(十一月中旬〜五月下旬予定)

平成24・25年度 国有林モニターの募集について

企画調整室

中部森林管理局では、「国有林モニター」を下記のとおり募集します。

この募集は、中部森林管理局が管轄する富山県・長野県・岐阜県・愛知県にお住まいの皆様が国有林が果たしているいろいろな役割や、森林の整備、木材の供給、ふれあいの場の提供等の状況をご理解いただくとともに、国有林に対するご意見等を直接伺い、今後の管理経営に役立てていく取組の一環として行うものです。

記

1. 募集人員 36名
2. モニターを依頼する期間
平成24年4月1日から平成26年3月31日までの2年間
3. 依頼内容 ①アンケート調査への回答
②国有林の管理経営に関するご意見、ご要望等の提出
③モニター会議への出席等
4. 応募資格 中部森林管理局が管轄する富山県・長野県・岐阜県・愛知県にお住まいで国有林に関心をお持ちの成人の方。
ただし次の方は除きます。
①国会・地方議会の議員、②地方公共団体の長、③常勤の国家公務員
5. 応募方法等 中部森林管理局のホームページよりご応募ください。
郵便はがき、FAXでも応募できますので、応募記載事項を記し、「中部森林管理局 企画調整室（国有林モニター担当）」宛にご送付ください。

【応募記載事項】

- ①氏名（フリガナ）
- ②性別
- ③生年月日
- ④年齢
- ⑤郵便番号
- ⑥住所
- ⑦職業
- ⑧電話番号
- ⑨国有林モニターをどのようにして知りましたか？
- ⑩国有林モニターに応募した理由（具体的に）

【応募締め切り】

平成24年1月31日（火）

- ・結果は平成24年3月中旬頃までに、依頼状の発送をもってお知らせします。
- ・応募者多数の場合は抽選により選定をさせていただきます。

6. 応募、問合せ先
〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5
中部森林管理局 企画調整室（国有林モニター担当）
TEL：050-3160-6533 FAX：026-236-2657
7. その他
・国有林モニターの応募理由や提出いただいたアンケートの回答、意見、提言は匿名にて公表する場合があります。
・提出された意見や要望に、個別に回答することはしません。

※皆様の個人情報は、国有林モニターの目的以外には使用しません。